

Shuzo Takiguchi and Marcel Duchamp

November 22, 2011–January 29, 2012 | Chiba City Museum of Art

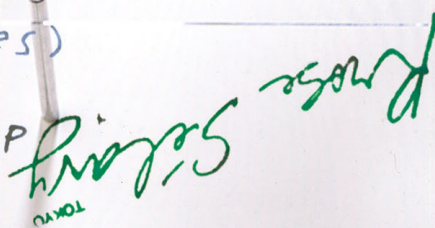
開館時間は節電等のため変更となる場合がございます。

観覧料 | 一般800(640)円、大学生560(450)円、小・中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

()内は前売・団体20名以上、および市内にお住まいの60歳以上の方の料金

前売券は、千葉市美術館ミュージアムショップ(11月13日まで)、ローソンチケット(Lコード|35146)、セブンイレブン(セブンコード|083-483)、

千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口(1月29日まで)にて販売。



after
MARCEL DUCHAMP

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉県中央区中央3-10-8
Tel 043-221-2314(代表) Fax 043-221-2316
<http://www.ccma-net.jp>

<http://www.ccma-net.jp>

瀧口修造とマルセル・デュシャン

Shuzo Takiguchi and Marcel Duchamp

瀧口修造[1903-1979]は、1938年、『みづゑ』誌上に「マルセル・デュシャン(調革の論理)」を、1955年には『藝術新潮』に「異色作家列伝12:デュシャン」を発表し、日本のマルセル・デュシャン受容において先駆的な役割を果たしました。けれども瀧口にとってデュシャンが真に特別の存在となるのは、スペインのカダケスにあるサルヴァドール・ダリ宅を訪れた際に、ダダの巨匠との邂逅を果たしたのちのことです。以後瀧口はデュシャンと手紙のやり取りを続け、彼の異名「ローズ・セラヴィ」を冠した「オブジェの店」構想から発した『マルセル・デュシャン語録』の編纂、岡崎和郎の助けをかりての《検眼圖》の制作など、最晩年に至るまで精神的なつながりを保ち続けました。

本展は、300点を超える作品や資料をととして、瀧口修造とマルセル・デュシャンの交流を紹介します。第1部では「大ガラス」を未完のまま放棄した1923年以降のデュシャンの作品を展示し、第2部では瀧口とデュシャンの具体的な交流やつながりを、二人の作品や写真・書簡等の資料によって編年順に跡づけていきます。また第3部では、ジャスパー・ジョーンズ、マン・レイ、荒川修作、岡崎和郎、赤瀬川原平をはじめ、瀧口が交友を結んだ14人の作家たちによる、瀧口ゆかりの作品およびデュシャン関連作品を展示します。

【関連イベント】

高橋アキ・ピアノ・リサイタル ケージ・武満・実験工房

12月3日[土] 14:00より(13:30開場)

会場 | 1階さや堂ホールにて

出演 | 高橋アキ[ピアニスト]

ジョン・ケージ「マルセル・デュシャンのための音楽」をはじめ、瀧口修造ゆかりの作曲家によるピアノ曲を、現代音楽の第一人者が演奏。

■要事前申込み

申し込み | 往復はがきに、郵便番号・住所・氏名・電話番号、参加人数(2名まで)を明記の上、〒260-8733千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館 企画係まで(11月25日[金]必着)。申込多数の場合は抽選。

【記念講演会】

瀧口修造とマルセル・デュシャン(仮称)

12月11日[日] 14:00より(13:30開場)

会場 | 11階講堂にて

講師 | 巖谷国土[フランス文学者・明治学院大学名誉教授]

■先着150名 | 聴講無料

【映画上映会】

「死なない子供、荒川修作」

1月15日[日] 14:00より(13:30開場)

会場 | 11階講堂にて

「三鷹天命反転住宅」を中心に荒川修作の作品世界を紹介するドキュメンタリー映画

2010年作品 | 80分

監督 | 山岡信貴、

ナレーション | 浅野忠信

■先着150名 | 入場無料

【展覧会】

瀧口修造の光跡Ⅲ 百の眼の物語

12月6日[火]—12月25日[日]

会場 | 9階市民ギャラリー 入場無料

開館時間 | 美術館と同様

瀧口修造のデカルコマニー40点を、1960年頃から晩年まで年代順に展示し、その色彩や文様の生じ方などの変遷をたどる。土淵信彦氏がそのコレクションにより毎年企画・開催している瀧口展の第3回展。

【市民美術講座】

1923年以降のマルセル・デュシャン

12月17日[土] 14:00より(13:30開場)

会場 | 11階講堂にて

講師 | 水沼啓和[当館学芸員]

—

瀧口修造の2つの旅とデュシャン

1月21日[土] 14:00より(13:30開場)

会場 | 11階講堂にて

講師 | 水沼啓和[当館学芸員]

■いずれも先着150名 | 聴講無料

—

ギャラリートーク

| 担当学芸員による |

11月23日[水]、1月10日[土] 14:00より

| ボランティアスタッフによる |

会期中の毎水曜日 14:00より

(11月23日をのぞく)

■チケットをお持ちのうえ、8階展示室

入口にお集りください。

【同時開催】

所蔵作品展 | 実験工房の芸術家たち

2011年11月22日[火]—2012年1月29日[日]

【次回展予告】

所蔵作品展 | 寄贈・寄託作品展

2012年2月4日[土]—2月26日[日]

表

瀧口修造・岡崎和郎《検眼圖》1976 千葉市美術館蔵
瀧口修造「検眼圖傍白(部分)」1977年、
慶應義塾大学アート・センター蔵



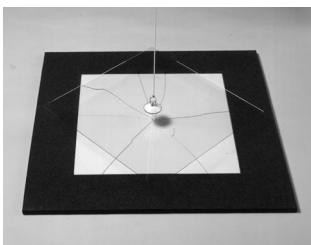
© Succession Marcel Duchamp / SPDA, Tokyo, 2011



© Succession Marcel Duchamp / SPDA, Tokyo, 2011



上から「マルセル・デュシャン《トラノオの中の箱(特装版)》」(富山県立近代美術館蔵)
瀧口修造《マルセル・デュシャン語録》(富山県立近代美術館蔵)
三段目右 瀧口修造《ローズ・セラヴィのために》(個人蔵)
三段目左 瀧口修造《ローズ・セラヴィのために》(個人蔵)
ジャスパー・ジョーンズ《Summer critic》(1966) 個人蔵
岡崎和郎《マルセル・デュシャン(人名録より)》(1979) 作家蔵



DIC川村記念美術館との提携

チケット半券提示による相互割引

「視覚の実験室 モホイナジ/イン・モーション」(12月11日まで)と

「抽象と形態:何処までも顕れないもの」(1月14日より)の会期中に、

千葉市美で川村の、川村で千葉市美のチケットの半券(有料券のみ)を
ご提示いただいたお客様には、入場料の割引を行います。

千葉市美術館 | 一般800円~640円 大学生560円~450円

DIC川村記念美術館 | 一般1200円~1000円 学生・65歳以上1000円~800円

無料往復バス

「瀧口デュシャン」展とDIC川村記念美術館の2つの展覧会の

会期が重なる時期の土曜日および日曜日に、両館を往復する

無料往復バスを走らせします。(所要時間は約50分です)

運行日 | 11月25, 26日 12月3, 4, 10, 11日 1月14, 15, 21, 22日

時間 | 千葉発13:00, 川村発14:00, 千葉発15:00, 川村発16:00

千葉市美術館エントランス前、川村記念美術館無料バスのりばから発着いたします。



〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel. 043.221.2311(代) <http://www.ccma-net.jp>

交通案内 | JR千葉駅東口より | ・徒歩15分・バスのりばより大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩3分・千葉都市モ
ルール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩5分

■京成千葉中央駅東口より徒歩約10分 ■東京方面から車では京葉

道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝

塚IC下車国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く。

■千葉市中央区役所と同じ建物です。

■地下に区役所と共有の駐車場がありますが、混雑が予想されますの

で、なるべく公共の交通機関をご利用ください。

